

琵琶島遺跡の概要

遺跡情報

- 名称: 琵琶島遺跡 びわじま いせき (中野市遺跡地図 210 番)
時代: 弥生時代中期を中心とし、古墳時代・中近世の遺物も出土。
性格: 集落遺跡(弥生時代)、散布地(古墳～近世)
立地: 千曲川の左岸に発達した段丘面(標高 320～340m 付近)に立地
千曲川が著しく蛇行した曲流部、舌状地形の先端近くに位置する。
所在地: 中野市(旧豊田村)大日影、滝脇地籍

発掘履歴

過去における発掘調査実績なし。

※平成 22 年調査 中野市教育委員会による試掘調査実施

平成 23 年度の調査経過概要

- ・ 7 月 4 日より準備開始、進入路・駐車場等造成・草刈り等実施
- ・ 8 月 1 日発掘調査を開始(調査研究員 2 名・発掘調査補助員 11 名)。
- ・ 8 月 8 日柱穴が検出され始める。検出面は中野市の試掘で古代以降と判断された柱穴と同時期のものと考えられる。
- ・ 8 月 11 日には性格不明の遺構(SX01)を発見。掘立柱建物跡の検出を始める。
- ・ 9 月 6 日掘立柱建物跡等の調査を開始。13 日より記録図面の作成を始める。
- ・ 9 月 27 日柱穴の調査が 100 基を超え、建物跡は 6 軒になる。
建物跡は規模・形状から中近世期の可能性も浮上してくる。
- ・ 10 月 5 日縄文・弥生面の(深堀)確認調査。中野市現地立会(1 回)。
- ・ 10 月 19 日掘立柱建物跡が 10 棟、柱穴の調査が 200 基を超える。
縄文・弥生面の(深堀)確認調査。中野市現地立会(2 回)。
平成 23 年度調査区(市道の西側)には縄文・弥生面は確認できない。
- ・ 11 月 10 日航空写真撮影。
- ・ 11 月 30 日平成 23 年度の発掘調査を終了する。
- ・ 12 月 9 日現況復帰、次年度プレハブ等設置予定地の造成完了。13 日撤収。

平成 23 年度に発掘した遺構・遺物数

- ・ 掘立柱建物跡(ST,ほったてばしらたてもものあと)が 15 棟
- ・ 柱穴状の土坑(SK,どこう)が 262 基
- ・ 縄文～近世の土器・陶磁器などコンテナ 6 箱

平成 23 年度の発掘成果概要(裏面の概略図を参照)

千曲川下流の左岸域に営まれた居住跡

今回の発掘調査では、中世以降とみられる建物跡及び土坑を数多く調査しました。遺跡は千曲川に向かって大きく舌状(ぜつじょう)にせり出した台地の先端部分にあり、台地を形成する砂礫層を基盤として建物跡や土坑が確認されました。建物跡は柱穴痕のみが残されており、上部の建築施設はもちろんのこと、それに関わる遺物も発見できませんでした。おそらく、住んでいた人が移動してしまった後、近世(江戸時代～)より新しい時期に水田化が進んで、建物跡の構築面の大部分が削平されてしまった結果と考えられます。したがって遺跡の時期を特定することが難しい結果となっています。残された柱穴痕から遺跡の性格を考えなければなりません。柱の間が 1 間×2 間の建物跡(掘立柱建物跡 13 や 14 など)や亀の子状に配置できそうな建物跡(掘立柱建物跡 11)など、弥生時代の倉庫の可能性もあり、また柱穴の不規則な配列や規模を示す建物跡(掘立柱建物跡 5 や 6)などは中世(鎌倉時代～)以降の建物とも考えられます。次年度調査予定地には、中野市教育委員会の試掘調査で弥生時代の竪穴住居跡(たてあなじゅうきょあと)が確認されており、今回発見された建物の所属時期も判断できると考えられます。200 基以上確認した柱穴は、建物跡や柵囲いなどの痕跡と考えられますが、全体像はつかめませんでした。

出土遺物は、ほとんどが土器の小破片で水田の耕土下より出土しました。時代は弥生時代のものが中心で、近世の陶磁器破片もわずかにあります。

今後の発掘調査予定

今回の開発事業で記録保存の対象となった発掘調査地は約 20,000 m²あります。これを大まかに 3 つの地区にわけ、平成 23 年度は市道より西側の約 5,500 m²(西区)を調査しました。次年度以降、市道の東側(東区)及び今回調査した西区の南側(南区)を対象に、合計約 16,000 m²を順次、調査していきます。

引き続き地域のみな様のご理解とご協力をよろしく申し上げます。

財)長野県文化振興事業団 長野県埋蔵文化財センター

琵琶島遺跡発掘調査班

町田勝則 前田一也

長野市篠ノ井布施高田 963-4

TEL 026-293-5926 FAX 026-293-8157

2011 年 12 月 12 日(月) 作成

